

# 平成 30 年度 学力向上指導改善プラン

三田市立八景中学校 校長 阪口 博昭

学校教育目標		自立して夢や目標の実現に挑戦する生徒の育成	
推進主体		校長、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、 教育課程担当、図書館教育担当	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する 質問紙調査の結果も含む)	国語	<p>&lt;話すこと・聞くこと&gt; 授業内で話し合いを実施する機会を継続して実施する。資料を活用して話す取組をさらに実施する必要がある。</p> <p>&lt;書くこと&gt; ○自分の考えを具体的に書くことが、「書くこと」にまつわる設問中、最も正答率が高かった。</p> <p>&lt;読むこと&gt; ○目的に応じて必要な情報を読み取る設問の正答率がやや高かった。</p> <p>&lt;伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項&gt; ○文脈に即して正しく漢字を読む設問は全員が正答した。●楷書と行書との違い、表現技法の知識に即し適切に使うなどの力に課題がある。</p>
		数学	<p>&lt;数式&gt; ○数、文字に関しての計算はよくできている。●文字式の意味、文章を式にすることは、練習が必要である。</p> <p>&lt;図形&gt; ●B 問題で物事を筋道立てて説明すること等に課題があり、円周の長さ、円の面積を求める練習が必要である。</p> <p>&lt;関数&gt; ○与えられた関数の式を活用できる。●グラフや表から関係性を見出し、式を作ることに課題がある。</p> <p>&lt;資料の活用&gt;●相対度数など統計に関する基礎的な用語の理解や資料の活用で課題があり、繰り返し練習が必要である。</p>
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	決まった範囲の中から出題される基礎的な問題に対しては正答率が高い傾向がある反面、自分で論理的に考え・説明する力に課題があり、記述で回答する設問に対し苦手な生徒が多い傾向にある。	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	各教科における提出物が決められた期限内に出せない生徒に対し、日常生活と関連づけた学習習慣の定着を目指した指導が必要である。また、基礎・基本的な学習の定着のため、補充学習等の支援が必要である。	
学力向上に係る学習習慣・生活習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<p>&lt;学習の基盤となる習慣&gt; ●家庭学習の習慣を問う設問の回答の割合が低かった。●家庭で長時間にわたりスマートフォン等でゲームをしている割合が高く、その使い方について家庭での約束を守っている割合が低かった。●新聞を読む等で文字離れの傾向があり、読書活動の啓発が必要である。</p> <p>&lt;学習に対する関心・意欲・態度&gt; ●国語は意見など発表するとき話の組立を工夫する、まとまった量の感想・説明文を書くことに課題がある。○数学は大切だと思う、できるようになりたい、内容がよくわかると答えた割合が昨年度を大きく上回った。●めあての提示、生徒間で話合う、授業の最後に学習活動を振り返る活動を問うそれぞれの設問で回答の割合が低かった。</p> <p>&lt;その他&gt; ○自尊感情、規範意識を問う設問の回答は概ね高く、良好である。●総合的な学習を問う設問の回答が低く、改善が必要である。●地域・社会などでボランティア活動に参加したと答えた割合が低く、地域や社会への関心を高め、地域の人とのつながりを深めていく必要がある。</p>	
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	基礎的な学力を身につけるために授業内容を改善したり、放課後学習等を実施したりしているという教師が多い反面、保護者に学校の取組が十分に伝わっていない傾向があった。生徒の学力向上につながる取組をさらに継続しながら、色んな機会を通して学校の取組を伝えていきたい。	
研修の状況	校内研究の状況	「基礎・基本の定着を目指した学習指導～学び合い、高め合う学習を通して～」を研究推進テーマとし、1 授業改善、2 家庭学習の充実、3 読書活動の充実、4 放課後学習の充実、5 小中連携の充実を図り、その取組を更新・継続して実施していく。	
	校内研修の状況	研究推進委員会を中心に研究推進テーマの達成を目指して、積極的な校内研修を推進している。校区小学校と連携した八景中学校全体の学習スタンダードを確立し、互見授業や公開授業を積極的に行うことで、校内全体で授業改善に取り組んでいる。	
校種間連携	家庭・地域等の状況	家庭・地域とのつながりを大切に、学校と家庭・地域が協働して生徒を指導・支援していく。共稼ぎの家庭も多く、学校がリードして家庭との連携をさらに深めていく必要がある。	
	小・中における教科連携等の状況	校区小学校との連携を密にとり、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成など 9 年間の学びの連続性を大切にしたい取組を行っている。出前授業、出前自転車安全講習会に加え、本校で新入生説明会を 1 月に開き、小学 6 年生を対象に理科・英語・音楽で体験授業を行った。春休みの「小中連携ノート」の取組で校区ふるさと自慢や読書手帳の引継ぎも実施している。	

4月		10～11月	2～3月
学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	中間評価
	1.授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートにおいて、授業の分かりやすさに対する生徒の肯定的評価 90%以上を達成する。</li> <li>全国学力・学習状況調査 A,B 問題ともに全国平均 6 ポイント以上を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎・基本の定着を目指した学習指導～主体的、対話的な深い学びを通して～」を校内共通テーマとした研究を学校全体(教科、全領域)で取り組む。</li> <li>「めあての提示」「協働学習」「振り返り」「発表の仕方」等を八景中学校授業スタンダードとして確立し、生徒が主体的、対話的な深い学びを実践できる授業を行う。</li> <li>学力向上を目指した授業改善を図るため、1ヶ月の互見授業期間を設定し、各教科で年 1 回以上の公開授業を実施する。</li> <li>ICT 機器(電子黒板、大型テレビ、タブレット、パソコン等)を使った授業を行う。</li> </ul>
2.家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日の家庭学習が 30 分以上の生徒が 95%以上を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭学習の手引き」を毎年更新して全校生に配布することにより家庭での学習の仕方や目安時間を指導する。</li> <li>定期的な家庭生活状況調査の実施による家庭学習習慣の点検、指導を行う。</li> <li>学校だより等を活用し各家庭への啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めに家庭学習の手引きを配布し、定期的な家庭生活状況調査の実施による家庭学習習慣の点検・指導を行っている。調査結果を学校通信に掲載し、各家庭への啓発を行っている。</li> <li>家庭での学習時間、学習習慣にやや課題があり、課題解決に向け、自分で考え、自分から進んで取り組んでいく意欲がやや不足しているように伺われる。「家庭学習の手引き」の活用、きめ細かい教科や学級の指導、保護者の方への啓発などをさらにを行い、家庭学習を充実させる。</li> </ul>
3.読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 日の読書時間 30 分以上が、全校生徒の 60%以上になる。</li> <li>クラスと個人の平均貸出数が昨年度の結果を上回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動充実プランを策定し、実施する。</li> <li>毎朝 8:25～8:35 の 10 分間(朝礼がある月曜日以外)で朝読書を継続して行う。</li> <li>毎月 23 日を「八景中学校読書の日」とし、学校司書と連携し、授業時間も含め、読書活動を活性化させる。</li> <li>学校図書館の環境整備と「学校図書館便り」発行を行う。</li> <li>読書手帳で 100 冊読書を達成した生徒を全校集会で表彰し、読書への関心を高める。</li> <li>家庭での読書活動の啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝の読書を継続して行っている。</li> <li>全国学力・学習状況調査の結果より「学校の授業時間以外に普段(月から金)、一日当たりどれくらいの時間読書をしますか(教科書、参考書、漫画、雑誌はのぞく)」という質問に対する回答が全国平均と比べてやや少ない状況であった。</li> <li>学校司書と連携し、学校図書館の環境整備や「学校図書館便り」発行など、授業時間も含め読書活動の活性化に取り組んでいる。</li> </ul>
4.放課後の学力補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員に質問することで自ら分からないことを解決しようとする生徒 65%以上を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域人材を活用した「ひょうごがんばりタイム」を継続する。</li> <li>放課後補充教室を実施する。</li> <li>定期テスト前に学習相談を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ひょうごがんばりタイム」放課後補充教室」「定期テスト前の学習相談」を計画的・継続的に実施できている。</li> <li>6 月学校をよりよくするアンケートで、「授業中、分からないことや疑問に思ったことを質問しやすい雰囲気がある」に対する生徒の肯定的評価は 70.6%であった。</li> </ul>
5.小中連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学力向上を意図した小・中連携に加えて、学習規律の確立を小・中連携によって図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校卒業時の目指す生徒像を校区小学校で共通認識し、9 年間を見通した取り組みを行う。</li> <li>出前授業や体験授業を行う。</li> <li>1 月に本校で新入生入学説明会を行い、中学校の教師による体験授業を実施する。</li> <li>春休みに「小中連携ノート」を作成、配布する。</li> <li>校区ふるさと自慢や読書手帳の引継ぎを行う。</li> <li>学習規律を小中で統一する部分を協議し、教員間での共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6 月学校をよりよくするアンケートで、「先生たちは、自分の良さをしっかりと認めてくれる」に対する生徒の肯定的評価は 82%であった。さらに校区小学校との連携を密にし、教師の生徒との関わり方や生徒理解を深めていく。</li> <li>小中で統一した学習規律を教員間で共通理解し、取り組めている。</li> </ul>